

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03811

研究課題名(和文)戦後における重度重複障害児教育実践の創成に関する歴史研究とアーカイブ化

研究課題名(英文) Historical research on the creation of educational practices for children with severely and multiple disabilities in the post-war period and video archiving of educational practices

研究代表者

越野 和之(Koshino, Kazuyuki)

奈良教育大学・学校教育講座・教授

研究者番号：90252824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：1960年代から70年代にかけておもに養護学校等において制作された重度重複障害児の教育・福祉実践に関する映像記録を分析し、重症心身障害児、筋ジストロフィー児などの重度重複障害児の教育実践ならびに学校制度の形成過程を明らかにすることで、養護学校義務制実施の歴史的経路を検証した。また、戦後障害児教育に関する実践記録映像をデジタル化して保存し、映像アーカイブスの横断的なネットワークの構築をめざした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

映像記録をおもな史料とする本研究の意義は、1)戦後の重度重複障害児の教育実践の成立の諸相を、教育学と発達心理学の双方から検証する学際的研究であること、2)重度重複障害児の教育実践および学校制度を成立させた物質的・社会的基盤を明らかにしたこと、3)映像記録の保存とアーカイブ化により、戦後の障害児教育実践の遺産の消失を食い止め、その次世代継承の可能性を明らかにしたこと、の三点である。

研究成果の概要(英文)：From the 1960s to the 1970s, a large number of video recordings the education and welfare of children with severe and multiple disabilities produced mainly in special schools and other institutions. The aim of this research project was to examine the historical path of a compulsory school system for all children with disabilities, such as children with severe motor and intellectual disabilities and children with muscular dystrophy, through the analysis of these video films of welfare practices and the analysis of severely handicapped children and children with muscular dystrophy, through the analysis of video records and clarifying the formation of the educational practices and school system. We also digitized and preserved video recordings of educational practices for the children with disabilities after the war, and build a network of video archives.

研究分野：障害児教育学、障害児教育史

キーワード：重度重複障害児教育 養護学校義務制 『夜明け前の子どもたち』(1968) 『ぼくのなかの夜と朝』(1971) 『愛と力』(1968) 『ともだち』(1971) 『われら人間家族』(1966)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

戦後教育史に関する基礎資料の作成や研究成果の公開が進んでいる。特別支援教育においても「特殊教育から特別支援教育への転換」、「インクルーシブ教育システム構築」と激変する今日の状況を歴史的に見通すうえで戦後障害児教育の総括は不可欠である。そこで本研究は、戦後障害児教育の歴史的評価のための基礎作業として、重度重複障害児の教育実践の成立を捉える資料の収集・分析をめざした。1979年度の養護学校義務制実施に示されるように、重度重複障害児の教育保障こそ、日本の障害児教育の水準を評価するポイントとされてきたからであり、当該時期の障害児教育実践は、義務制実施という同時代的な課題意識に依拠し規定されながら、個別の実態が理念的な側面とともに評価されてきた。これに対して本研究は、重度重複障害児を教育可能態として組み入れていく学校固有の実践と制度の位相に着目し、教育実践ならびに学校制度の形成に接近するための史料として映像記録に注目した。

2. 研究の目的

本研究は、1960年代から1970年代にかけて制作された養護学校等の教育実践に関する映像史料を分析し、知的障害や肢体不自由をあわせもつ重度重複障害児の教育実践が成立する社会過程と歴史的条件を明らかにするとともに、映像のデジタル化とアーカイブ化を通じて、歴史史料としての映像記録の活用と共同利用の可能性を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

4年間の研究期間のなかで、1)映像記録の調査とデジタル化、2)映像内容の検証、3)関係者のオーラルヒストリーの収集、文書史料の調査、4)映像記録のアーカイブ化とデータベース化、の四つの研究作業を行った。これらの作業を通して、戦後の重度重複障害児の教育実践および学校教育の成立にかかわる構造と条件、重度重複障害児教育の成立を促進させた社会的・歴史的基盤がどのように形成されたのかを解明することを到達目標とした。あわせて、記録映画の公開と活用、そのための映像アーカイブスの横断的なネットワークの形成に向けた課題を明らかにし、戦後障害児教育に関する記録映画の保存と継承を行う。

4. 研究成果

本研究の中心的作業は、映像記録のデジタル保存、未確認映像の調査発掘、当時のテレビ等の関係報道の検討、映画のシナリオ等の文字・文書史料との突き合わせ、関係者への聴き取り調査である。具体的には、以下の映像資料の収集・分析を行った。(1)知的障害児施設「近江学園」・重症心身障害児施設「びわこ学園」を系譜とする重症心身障害児療育、(2)国立療養所併設養護学校における筋ジストロフィー児をはじめとする病弱教育、(3)東京都立光明養護学校を中心とする肢体不自由教育。

これらの映像資料に関する基礎情報の収集・整理を行った。(1)について、療育記録映画『夜明け前の子どもたち』(1968)の製作スタッフ(梅田克己氏:助監督、大野松雄氏:音響担当、田村俊樹氏:スチール担当)への聴き取り調査、びわこ学園、あざみ寮などで史料調査を行い、未使用フィルムのデジタル保存と内容の検証を行った。(2)について、国立療養所西多賀病院のベッドスクールのドキュメンタリー映画『ぼくのなかの夜と朝』(1971)の映像の検証、京都市立鳴滝総合支援学校に保存されていた宇多野病院併設学級時代および養護学校時代の映像資料のデジタル化を行った。(3)について、東京都立光明養護学校のドキュメンタリー映画『愛と力』(1968)の映像の検証、光明特別支援学校で追加の史料調査により現存フィルム・オープンリールビデオのリスト化を行い、東京都立小平養護学校に開設された脳性まひ児学級を追ったドキュメンタリー映画『ともだち』(1971)について、監督した杉原せつ氏に聴き取り調査を行うとともに、氏からフィルムの提供を受けてデジタル化した。

以上の基礎作業をふまえて、1960年代後半から1970年代にかけて制作された障害児関係のドキュメンタリー映画の代表作として『夜明け前の子どもたち』(1968)を位置づけることで、同時代に産出された筋ジストロフィー児や肢体不自由児・重度重複障害児に関する記録映画の布置関係が明らかとなり、各作品の映像コンテンツとそこに共通する時代性を検証することが可能となった。

また『夜明け前の子どもたち』(1968)は、障害児教育権保障運動に参加する人びとの教育認識を形成し、主体性を喚起するメディアとして活用された。同作品に至るまでに制作された『われら人間家族』(1966)等をはじめとする重度重複障害児の映像作品群を位置づけてみると、重症心身障害児の発達が特殊なものではなく、人間発達の共通する道筋にあること、発達の共感の関係のなかで、障害のある子どもたちも、主体として外界へ働きかけ、自らの発達を獲得していくという問題提起の萌芽が認められ、それらの映像が重度重複障害児の受容や発達をとらえるまなざしを共有するメディアとなり、本格的な記録映画や教育実践の前提をなしたことが明らかとなった。

筋ジストロフィー児教育に焦点をあてて、病弱・重度重複障害教育が教育方法・技術のレベルで対象化され、患者運動や教育運動を媒介しながら「学校教育」としての内実を形成し

ていく過程を分析し、養護学校義務制実施につながる歴史経路の叙述を試みた。1950年代に入り、戦後医療の復興の象徴として「国民病」といわれた結核の治療が確立をみる。国立療養所結核病棟は1950年代後半から1960年代に転換を迎え、慢性疾患入院児童、重症心身障害児、筋ジストロフィー児童への対応が模索された。1964年には「進行性筋委縮症対策要綱」が発表され、指定された国立療養所内に筋ジストロフィー病棟が設置された。1970年代には筋ジストロフィー病棟での教育が本格的に開始される。これらの病棟生活と病弱教育にかかわる資料には、入院児童や教育実践を記録した文書資料とともに、映像や音声の記録が多く存在した。国立療養所における筋ジストロフィー病棟の設置と病弱養護学校の整備と並行して、筋ジストロフィーに関する啓発的な映画や番組が製作される一方、病弱養護学校には放送教育の一環として映像機器が導入され、児童生徒や青年たちが映像制作に取り組み、当事者の自己表現の手段とされていった。

映画『ぼくのなかの夜と朝』(1971)を契機として、筋ジストロフィー児を取り上げた報道映像がつかわれていく1970年代の動向をおさえた。「ある生の記録」(1972、NHK)は、国立療養所下志津病院(千葉)の筋ジストロフィー児に入院しているデュシェンヌ型筋ジストロフィー児の生活と学習を追ったドキュメンタリーである。一方、「ぼくのなかの夜と朝」の舞台となった国立療養所西多賀病院(仙台)の入院者たちは、国をあげての筋ジストロフィー研究の推進を要請していく。「生きてるあかし - ある筋ジストロフィー患者の陳情 - 」(1978、東北放送)は、国立研究所設立の署名・募金運動を記録している。このような動きが「日本筋ジストロフィー協会」の運動へとつながっていくが、その中心は筋ジストロフィー児の親たちであり、岩手から西多賀病院へ入院させた親の会を描いたドキュメンタリー「翔べ!白鳥よ」(1979、岩手放送)が制作された。

一方、西多賀病院に入院していた3人兄弟の筋ジストロフィー患者(山田寛之、秀人、富也)が映画『車椅子の青春』(1977)の制作を経て「ありのまま舎」を設立し、病棟生活から地域での自立生活運動へと展開していく思想と運動の過程をあとづけながら、筋ジストロフィー児たちが、患者(病者)ないし運動主体としての自己形成を遂げていく過程に学校教育がいかに関与したのかをふまえて、病弱・重度重複障害教育の形成過程を明らかにした。

戦後の特殊教育において重度重複障害児の教育実践が成立する構造を明らかにし、養護学校義務制実施へとつながる歴史的経路を総合的に検討した。日教組特殊学校部(障害児学校部)の中心にいた三島敏男の教育行財政分析の活動について、三島の残した資料・論考を分析しながら、「権利としての障害児教育」の形成過程を明らかにし、そこに養護学校義務制実施過程を位置づけながら、1960年代から1970年代にかけての重度重複障害児をめぐる教育実践・教育運動・教育政策の絡み合いを明らかにした。三島は教職員組合運動の立場から特殊教育政策・行財政分析を精力的に行う一方、「戦後障害児教育運動史」の執筆に取り組んでおり、「運動」の視点から五つの時期区分で「戦後障害児教育」の通史叙述をめざしていた。その未完成原稿を松本昌介氏(元東京都立養護学校教員)の協力を得て校閲・編集して『権利としての障害児教育 - 三島敏男の仕事 - 』として冊子化した。これにより、1979年の養護学校義務制実施へと至る国会レベルでの政策審議過程ならびに、それらを運動の側がいかに読み込み政策要求を作り出してきたのかを一体的に把握することができた。

東京を対象地域に定め、養護学校教育が成立する社会的な土台の形成に着目し、(1)重度重複障害児への教育要求・課題を「養護学校」として制度化するエネルギーの生成と組織化、(2)障害児教育実践・運動のメディアとしての障害児教育・福祉の映像記録の活用という二つの視点から総括的な検討を行った。東京都の希望者全員就学(1974)は養護学校義務制実現を射程にした、障害児の教育権保障における重要な自治体施策であった。重複障害児問題と交差する肢体不自由児にとっても教育の場がきわめて限られるなか、広域を通学圏とする都立学校ではなく、区市の「特殊学級」開設をめざす運動の特徴は、障害の重い子どもが入級するために軽度の障害を想定した「特殊学級」を見直す必要があったこと、親が主体となって不就学の実態を明らかにして肢体不自由学級の必要性を訴えていたことなどにあった。そして、こうした運動は、重度障害児の発達・権利侵害をとらえ返すことで権利保障の道を探り、運動の参加者自身が矛盾や葛藤と向き合いながら主体形成をはかっていく過程でもあった。

1960年代から70年代における重度重複障害児の映像記録について、映画ニュースで報道された重症心身障害児問題、重度障害児を受けとめ試行的に取り組みを行った施設でのドキュメンタリー、重症心身障害児の発達の映像記録などを跡づけることで、同時代の障害児問題を顕在化させた障害の受容と発達の発見のまなざしを明らかにした。映画ニュースが伝えた障害の重い子どもたちは、在宅で親の献身的な努力あって生存が支えられていた映像、非人間的な状態におかれていた映像を印象的に示す一方、重症心身障害児施設ではベッド不足と職員不足の問題を抱え、恩恵的なものとなっていることを短時間に示した。高度成長の中で忘れられた障害児とその家族の問題を描く映像作品も先駆的に製作され、それらは重度障害児をもつ家族の心情、そして重度障害児の発達とそれへの共感と理解を通して「人間とは何か」を問うものであった。

こうした映像記録の作成自体が、重度重複障害児に対する教育実践の成立や社会的発信と不可分であった点に着目して、重度重複障害児の教育の必要性や養護学校教育のイメージがいかに形成・共有されたのかを検討し、重度重複障害児と家族、教師の視点から戦後障

害児教育史像の提示を試みた。1960年代には憲法理念が行き届かない重度重複障害児の生存状況があり、そこに高度成長がもたらした生存基盤の破壊が重畳する複合的な権利侵害の構造を組み替え、重度重複障害児の生存と発達を実現する実践・運動を集約したのが学校教育であったといえる。

なお、本研究において発掘・デジタル化した映像資料については、所蔵先の施設や学校に対するフィードバックを行い、保管を要請したが、その公開方法について検討を継続する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 夏美愛永・小森哲郎・大野晶子・玉村公二彦	4. 巻 25
2. 論文標題 映画にみる障害のある人たちの自立と生活 「リビング（生活）」と「ライフ（生涯）」の関係を視点として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害児の生活教育研究	6. 最初と最後の頁 70-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 玉村公二彦	4. 巻 25
2. 論文標題 鈴木健二の敗戦体験と「近江学園の子ら」 NHK『こんにちは奥さん』と近江学園の20周年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害児の生活教育研究	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 玉村公二彦	4. 巻 47(4)
2. 論文標題 障害の重い子どもたちの「生きる証」と発達へのまなざし	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 清水貞夫・玉村公二彦	4. 巻 16
2. 論文標題 和光学園における「共同教育」の提唱と盲児の統合教育 映画『みんなであうたう太陽のうた』（1978年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都女子大学発達教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中村尚子	4. 巻 47(4)
2. 論文標題 全員就学への道程における重度重複障害児問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 26-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合隆平	4. 巻 47(4)
2. 論文標題 高度成長期の発達保障運動における主体形成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎由可里	4. 巻 75
2. 論文標題 障害者権利条約の精神に立脚する障害児教育(「特別支援教育」)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 わかやまの子どもと教育	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水貞夫・玉村公二彦・富井奈菜実	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 第二次世界大戦後初期の「精神遅滞」をめぐる諸問題 大恐慌からヘパー定義にいたる道	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良教育大学紀要(人文・社会科学)	6. 最初と最後の頁 201-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉村公二彦	4. 巻 1
2. 論文標題 斉藤千栄治と「精神薄弱の特別取扱」について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 障害児教育史研究	6. 最初と最後の頁 7-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水貞夫・玉村公二彦	4. 巻 14
2. 論文標題 筋ジストロフィー病棟「脱出」から「難病ホスピス」の建設への道程	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 障害児の生活教育研究	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合 隆平	4. 巻 85
2. 論文標題 重症心身障害児の「学校」をつくる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 433 ~ 445
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11555/kyoiku.85.4_433	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松島明日香	4. 巻 46(2)
2. 論文標題 「4歳の節」にいたる過程での行動調整の発達と言葉の役割	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 98-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukari YAMAZAKI	4. 巻 63
2. 論文標題 A Study on Child Classification and Special Needs Children at Reform Schools in Pre-War Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 HNUE Journal of Science	6. 最初と最後の頁 161-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水貞夫・玉村公二彦・木下理恵・越野和之	4. 巻 66(1)
2. 論文標題 最初の重複障害教育としての山梨盲学校での盲ろう児指導 映画『盲ろう児 その教育』をより深く理解するために	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奈良教育大学紀要 (人文・社会科学)	6. 最初と最後の頁 39～51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉村公二彦	4. 巻 613
2. 論文標題 記録映画の世界 - 『夜明け前の子どもたち』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 みんなのねがい	6. 最初と最後の頁 28～30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水貞夫・玉村公二彦	4. 巻 22
2. 論文標題 敗戦後の結核学童とその教育 - 少年保養所 / 小児結核療養施設と映画「あの山を見てごらん」 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 障害児の生活教育研究	6. 最初と最後の頁 68～86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉村公二彦	4. 巻 22
2. 論文標題 障害のある子どもたちの発達と重症心身障害児施設 - 梅田克己『びわこ学園1967』資料によせて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 障害児の生活教育研究	6. 最初と最後の頁 100-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村尚子	4. 巻 18
2. 論文標題 肢体不自由養護学校における機能訓練の位置づけに関する史的考察 担当者に視点をあてて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 立正社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水貞夫・玉村公二彦・越野和之	4. 巻 65
2. 論文標題 ベッドスクールの誕生と筋ジストロフィー病棟の子どもたち 戦後病弱教育の成立過程と映画「ぼくのなかの夜と朝」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 奈良教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合隆平	4. 巻 50
2. 論文標題 書評：井原哲人著『「精神薄弱」乳幼児福祉政策の戦後史：権利保障体系の展開と変質』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会事業史研究	6. 最初と最後の頁 179-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松島明日香	4. 巻 29
2. 論文標題 発達診断における「支え」の意味 幼児期前半の発達の特徵	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人間発達研究所紀要	6. 最初と最後の頁 2-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富井奈菜実・荒木穂積・竹内謙彰・中村隆一・松島明日香・荒井庸子・松元佑	4. 巻 52 (1)
2. 論文標題 新しい発達診断法開発の試み (2) 幼児期における発達の基本構造の検出	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 立命館産業社会論集	6. 最初と最後の頁 149-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒川智	4. 巻 2015
2. 論文標題 特別支援学校制度の虚実	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 民主教育研究所年報	6. 最初と最後の頁 115-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Yukari Yamazaki
2. 発表標題 A Study of Child Classification and Treatment at Children Classification Facility in Pre-War Japan.
3. 学会等名 International Conference Developing the Support Service for Persons with Disabilities. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎由可里
2. 発表標題 少年教護院における入院・退院基準・教育実践・児童の実態等に関する研究 厚生省児童課『少年教護院調査要項』および各施設からの回答を中心に
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会（2018大阪大会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河合隆平
2. 発表標題 東京都の希望者「全員就学」政策の論理と体系
3. 学会等名 日本教育学会第76回大会ラウンドテーブル
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村尚子
2. 発表標題 希望者全員就学に向かうエネルギーはどのように蓄積されたのか
3. 学会等名 日本教育学会第76回大会ラウンドテーブル
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中村尚子
2. 発表標題 三島敏男と権利としての障害児教育
3. 学会等名 全国障害者問題研究会・第26回発達保障研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木穂積・中村隆一・竹内謙彰・松島明日香・富井奈菜実
2. 発表標題 発達段階論の実証的な検討 「新しい発達診断法」開発の過程から
3. 学会等名 心理科学研究会・秋の研究集会「乳幼児」分科会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 玉村公二彦・中村尚子・越野和之・河合隆平
2. 発表標題 1960～1970年代における障害のある子どもの療育・教育映像に関する検討 - 戦後における重度重複障害児の生命と教育実践の記録 -
3. 学会等名 全国障害者問題研究会第25回発達保障研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 玉村公二彦・越野和之・中村尚子・荒川智
2. 発表標題 映像記録にみる重度重複障害児教育実践の諸相 - 養護学校義務制実施前夜の教育要求 -
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第22回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中村尚子
2. 発表標題 肢体不自由養護学校における機能訓練の位置づけに関する史的考察
3. 学会等名 日本教育学会第75回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河合隆平
2. 発表標題 1970年代の不就学障害児実態調査運動における心理学研究者の自立と主体形成 - 「文京区心身障害児実態調査委員会」を中心に -
3. 学会等名 心理科学研究会2016年春の研究集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 荒川智	4. 発行年 2019年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 132
3. 書名 「第1章 インクルーシブ教育の基本的な考え方」茨城大学教育学部障害児教育教室・付属特別支援学校編『特別な支援を必要とする子どもの理解と教育』	

1. 著者名 河合 隆平	4. 発行年 2018年
2. 出版社 全国障害者問題研究会出版部	5. 総ページ数 130
3. 書名 発達保障の道 歴史をつなぐ、社会をつくる	

1. 著者名 越野和之・全障研研究推進委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 全国障害者問題研究会出版部	5. 総ページ数 268
3. 書名 発達保障論の到達と論点	

1. 著者名 全国障害者問題研究会（荒川智、園部英夫、中村尚子）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 全国障害者問題研究会出版部	5. 総ページ数 198
3. 書名 全障研50年史	

1. 著者名 中村 隆一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 人間発達研究所	5. 総ページ数 91
3. 書名 解説と資料『一次元の子どもたち』	

1. 著者名 「三島敏男の仕事」刊行委員会（松本昌介、中村尚子）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本障害者センター	5. 総ページ数 260
3. 書名 権利としての障害児教育	

1. 著者名 荒木穂積・松島明日香・中村隆一・竹内謙彰・富井奈菜実	4. 発行年 2017年
2. 出版社 人間発達研究所	5. 総ページ数 123
3. 書名 新しい発達診断法開発プロジェクト報告資料集「幼児期における発達の基本構造の検出と発達診断上の留意点」	

1. 著者名 田村和宏・玉村公二彦・中村隆一・白石正久・木下孝司・西垣順子・河合隆平	4. 発行年 2017年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 196
3. 書名 発達のひかりは時代に充ちたか？ - 療育記録映画『夜明け前の子どもたち』から学ぶ -	

1. 著者名 中村隆一・渡部昭男（編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 群青社	5. 総ページ数 273
3. 書名 人間発達研究の創出と展開 田中昌人・田中杉恵の仕事をとおりして歴史をつなぐ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	玉村 公二彦 (Tamamura Kunihiko) (00207234)	京都女子大学・発達教育学部・教授 (34305)	
研究分担者	中村 隆一 (Nakamura Ryuichi) (00469165)	立命館大学・人間科学研究科・教授 (34315)	
研究分担者	河合 隆平 (Kawai Ryuhei) (40422654)	首都大学東京・人文科学研究科・准教授 (22604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山崎 由可里 (Yamazaki Yukari) (60322210)	和歌山大学・教育学部・教授 (14701)	
研究分担者	中村 尚子 (Nakamura Takako) (70386514)	立正大学・社会福祉学部・特任准教授 (32687)	
研究分担者	荒川 智 (Arakawa Satoshi) (80201903)	茨城大学・教育学部・教授 (12101)	
研究分担者	松島 明日香 (Matsushima Asuka) (50710315)	滋賀大学・教育学部・講師 (14201)	